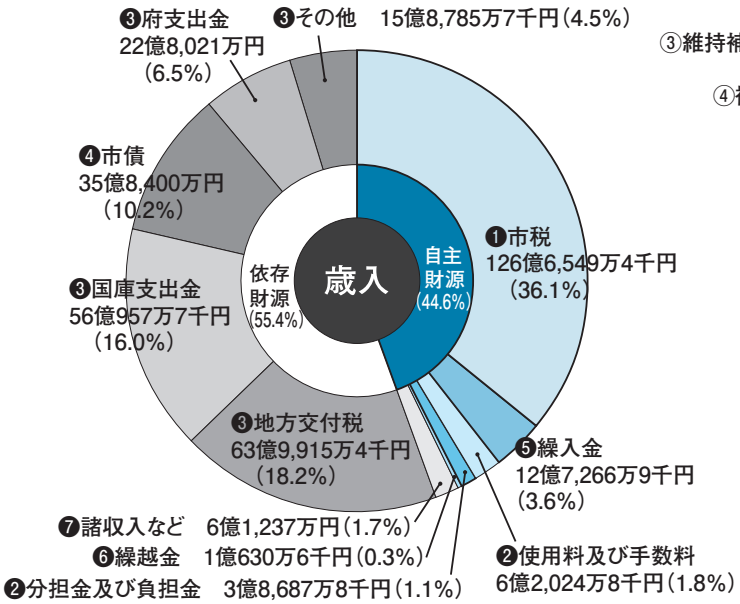
特集◉平成25年度決算報告

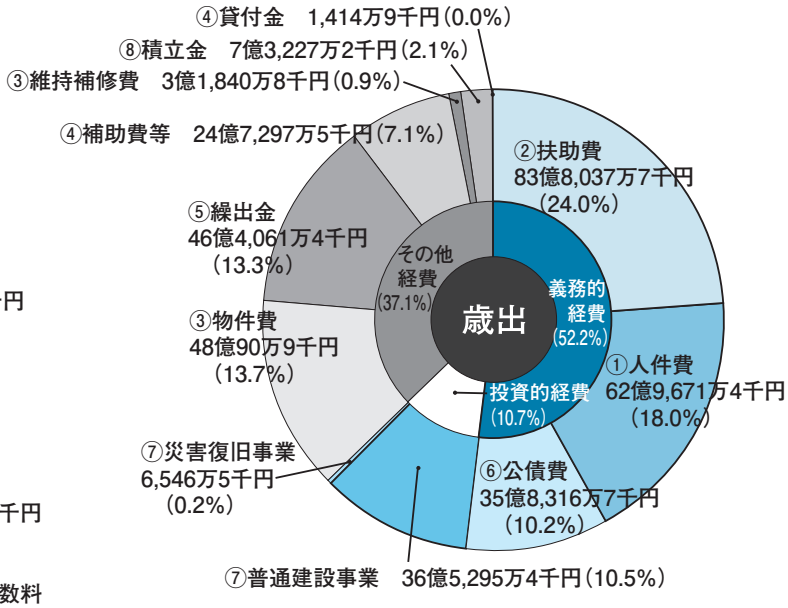
河内長野市の財政状況をお知らせします

平成25年度の決算がまとまり、一般会計の歳入総額は351億2,476万3千円、歳出総額は349億5,800万4千円となりました（下記円グラフ参照）。翌年度へ繰り越す財源を差引いた実質的な収支は、4,263万2千円で、黒字決算となりました。

ここでは、市民のみなさんの税金などがどのように使われたのか、サラリーマン家庭の家計に例えて説明しながら、市の財政状況についてお知らせします。

問い合わせ　財政課





※上記グラフの番号は下表の家計簿の番号と対比しており、同じ比率で家計簿の数値を算出しています。

かわちながの家の 家計簿

月収30万円としたら

（単位：円）

収入		支出	
❶給与収入	108,200	①食費	53,800
❷パート収入	8,600	②医療費・教育費	71,600
❸親からの援助	135,600	③光熱水費・日用品・修理	43,700
❹金融機関からの借入	30,600	④自治会・サークルの会費	21,200
❺貯金の取り崩し	10,900	⑤子どもへの仕送り	39,600
❻前月からの繰越金	900	⑥ローンの返済	30,600
❼雑収入	5,200	⑦家の増改築	31,800
―	―	⑧貯金	6,300
Ⓐ	300,000	Ⓑ	298,600

市税❶
市民税や固定資産税など

使用料、手数料など❷
施設使用料や住民票交付手数料など

国庫・府支出金、地方交付税など❸
国や府から給付されるお金など

市債❹
金融機関などから借り入れたお金

繰入金❺
貯金を取り崩したお金

繰越金❻
前年度から繰り越されたお金

諸収入など❼
財産の売り払いや寄附金など

①人件費
職員の給料や議員報酬

②扶助費
生活保護費や児童手当など福祉に使うお金

③物件費など
物品・原材料購入費や修理代など

④補助費など
各種団体に交付する補助金や貸付金

⑤繰出金
特別会計に対して支払うお金

⑥公債費
市債の元金や利子の支払金など

⑦普通建設事業費など
道路や学校などの建設や改修など

⑧積立金
貯金に積み立てるお金

余ったお金　Ⓐ－Ⓑ＝1,400

貯金残高 987,100　**ローン残高 6,718,600**

※貯金残高、ローン残高については、年収360万円とした場合

■市債・基金の状況

（単位：千円）

種　類	金　額	主な使い道
市　債	**65,552,349**	
臨時財政対策債等	18,112,053	財源不足への対応など
通常の建設地方債	15,483,689	教育･福祉施設等整備事業債など
下水道事業債	27,315,573	下水道事業
水道事業債	4,641,034	水道事業
基　金	**9,631,305**	
財政調整基金	2,604,053	財源不足への対応
減債基金	849,400	借金の返済
普通建設事業基金	2,003,543	一般建設事業
その他特定目的基金	4,000,582	長寿ふれあい基金など
水道事業基金	173,727	用地取得・施設整備など

※市民1人当たりの市債の額は586,950円、基金の額は86,238円です。

■特別会計・水道事業会計の決算

（単位：千円）

会計名	歳　入	歳　出
特別会計	**28,297,170**	**27,827,134**
国民健康保険事業	13,922,800	13,510,749
土地取得	199,816	199,816
部落有財産	432	432
下水道事業	3,848,695	3,847,527
介護保険	8,735,174	8,719,432
後期高齢者医療	1,590,253	1,549,178
水道事業会計	**2,607,615**	**3,232,940**
収益的収支	2,247,068	2,148,404
資本的収支	360,547	1,084,536

まちの財政状況

～経常収支比率は98・0％～

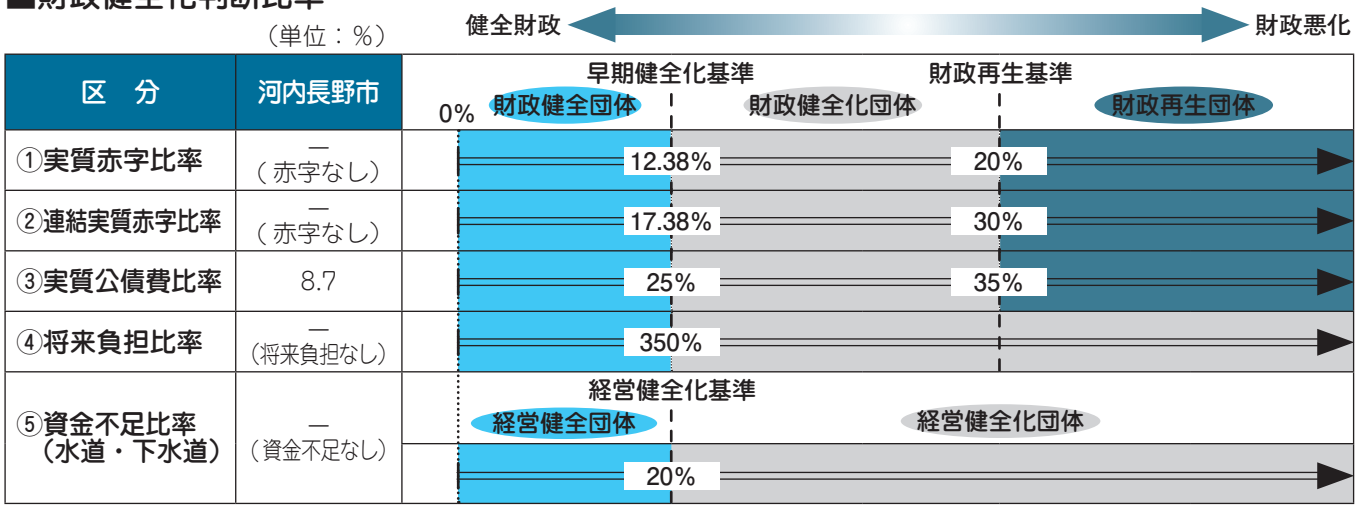
平成25年度一般会計の財政状況は、家計に例えると、食費や医療費、光熱水費、ローン返済金など経常的な支出だけで半分以上を占めています。これらの支出が、給与収入や親からの援助金など経常的に入るお金に対して、どれくらいの割合かを表す指標を経常収支比率といい、前年度から1・6％改善し、98・0％となりました。しかし、高い水準であることに変わりはなく、日常の必要経費だけで給料の大部分を使い果たし、自由に使えるお金がほとんど残っていない状態です。平成25年度は、景気の回復などにより法人市民税収入をはじめ、株式等譲渡所得割交付金や配当割交付金などが好調でしたが、将来的には人口減少と高齢化による収入の減少、社会保障関係経費や公共施設に係る老朽化対策関係経費の増加が予想されます。今後も安定した財政基盤の確立に向け、「財政体質改善プログラム」に取り組み、将来のまちの姿である「安全・安心・安定した緑と笑顔のあふれるまち」の実現に向けた施策を展開していきます。

なお、一般会計とは別に、特定事業を区別している特別会計と公営企業として設けている水道事業会計の決算および平成25年度末の市債・基金の状況は上表のとおりです。また、市の財産（土地・建物）は、土地が292万5239平方メートル、建物が26万7144平方メートルとなっています。

一方、財政が健全に運営されているかの指標を表す財政健全化判断比率（下表）では、いずれの指標も早期健全化基準を下回り、健全な運営状態であると言えます。

■財政健全化判断比率

（単位：％）



◉用語解説

①**実質赤字比率**：一般会計などの実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
②**連結実質赤字比率**：全会計の実質的な赤字額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
③**実質公債費比率**：一般会計などの実質的な借入金の返済額が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
④**将来負担比率**：一般会計などが抱える実質的な負債の残高が、標準的な収入に対してどれくらいの割合になるかを示すもの
⑤**資金不足比率**：各公営企業の資金不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合になるかを示すもの